

木戸侯爵日記 昭和十六年十一月二十九日

十一月二十九日

土 晴

午前九時池田季尊氏來訪面談

十時面談後午時局ニツキ懇談政

府ハ九時半ヨリ官中ニ於テ講水交渉

ヲ中心トスル時局問題ニツキ重臣ト

懇談終リテ御陪食ヲ仰付コトトナリ

居リシガ迄ニ一時ニ及ビ漸ク一時休

憩シ御陪食ニ列スルト云フ有様ニテ

誠心ニ寅辰辰巳行ハレタル模様ナ

リ御陪食迄二時ヨリ約一時國御學園

所ニ於テ陛下親シク重臣ノ意見ヲ御

聽取試験タリ眞誠其左ノ如シ

陛下ヨリ大變難シイ時代ニナツタホ

トノ御言葉アリ清江勇直ニ之ニ尋問

シ大坂左ノ如ク通ア

活ヒト我國民ハ精神力ニ於テハ必至

ナキモ國策ノ方面ニ於テ果シテ長久

久ニ達ヘタルヤ否ヤ貴重ニ研究スル

ノ事アリ

午前中政府ノ説明モアリタ

ルカ之シ心配ス

閑田ト今日ハ員ニ非能ノ事態ニ直面

セルモノト思フ國策ノ補給能力ニツ

キ充分底齊アリヤ道ダ心配ナリ先刻

Ex 1196

Dec 16 32 W (86)

Dec 16. 1861

2.

本政府ノ説明アリタルモホダ御存ス
ルニ至ラズ

平沼ト吉川下ヨリ我國民ノ精神力
ニツイテ御詮方アリマシタガ私モ真
ノ端同感テアリマス只既ニ四年ノ戰
爭ヲ遂行シテ居リマス今日更ニ長洲
ノ戰トナレバ吾君之ニ學ヘナケレ
バナリマセンノテ民心ヲ引導テ行キ
マス誠ニツイテハ充分ノ過誤ト努力
ガ必取ト否シマス

近頃ト四月以示自分ヘ日本交換堂
ニ努力シ來リタルガ遂ニ真ノ成果ヲ
得クルコトヲ覺サリシハ誠ニ遺憾ト
スルトコロナルガ現内閣モ亦無心ニ
此ノ目的ノ達成ニ努力セラレ居ルハ
懇請スルトコロデアル、午前中政府
ノ説明ニヨリ乍遺憾外交々涉ノ議題
ハ此上見送ナシト覺ムスルノ外ナキ
ガ外交々涉次第スルモ直ニ戰争ニ該
フルヲ其スルヤ、此ノ種ノ狀況下テ
臥薪嘗膽ノ狀況ニテ當也スル中文行
印ノ邊ヲ見出スラアラザルカトモ愚
ヘレ此ノ輪翁公利體局ニ頃シタイト

3.

Dec / 632 ル (86)

愚ソテ居リマス

本内一資料ヲ持テマセんノア具体的
ノ意見ハ申上ラレマセんガ俗語ヲ使
イマシテ恐入リマスガデリ貧ラ避ケ
ントシテドカ貧ニナラナイ様ニ充分
ノ御注意ク願ヒタイト愚ヒマス
廣田一世界六國公ノ名目ノ狀勢ヲ述
ベ反説毫無ニツイテモ英米ノ介入ヲ
極力避クル方針ヲ以テ臨ミタルガ遂
ニ今日ノ様ナ狀況トナレリ政府ノ說
由ニヨレバ今日ハ外交上ノ危機ニ立
テル様ニ愚ハル、ガ之ハ既に眞義ト
ノ關係アルトコロ由來外交實例ノ
危機ハ二度三度経過シテ始メテ双方
ノ國意力制モト愚フ今回危機ニ
直面シテ直ニ試験ニ終ハルハ如何
ナモノニヤ假ニ不矩止トスルモ假令
行テ合ヒタル後ト雖モ備ニ細心ノ注
意ヲ以テ機會ヲ逃ヘテ外交々済ニテ
解決ノ途フトルベキナリト愚フ
本一資料ヲ持タサルカ六体政府々大
本管ト充分協力研究セラレタル結果
ニ信頼スルハナシト愚フ

4.

Dec 16 32 M (86)

阿部ト政府ノ説明ニヨレバ外交々事
ノ議題ハ凶難ヲルベク今ヤ眞ニ重大
ナル國東ニ立テルモノト思フ政府ハ
非命ニ周密ニアラユル角度ヨリ研究
セラレタル様ニ思ハレ是以上ノコト
ハ豈メスト思フ只チ人心ノ動向ニ
ツイテハ眞直ニ眞良セラル、コトヲ
要スペク一處謀ラバ今日進行タル成
ルヲモ失フニ至ル矣アリト思フ
若松ト今日ハ眞ニ五六ナル時限ニ到
達セルモノト思フ爰ニ一言申上タキ
ハ帝國ノ首脳首領ノ必長トアレバ儀
令駿駿ヲ見シ得ル場合ト眞モ口ヲ
縛上トナシテモ立クナケレバナリマ
センガ只理想ヲ語イテ山県ヲ御邊メ
ニナルコト例ヘバ大東亜共榮國ノ確
立トカ東亜ノ安定シ力トカノ邁進ニ
トヲハレテ山力ヲ便ハル、コトハ誠
ニ危惧テアリマスカラ之ハ御考ヘラ
願ハナケレバナラナイト存シマス

西時直臣ヘノ政府ノ説明終リタル由
ニテ近衛公家室眞鍋米間題ヲ中心ニ置
々懇談ス午后七時賀陽官邸ニ伺候後
大河以下正徳總督ノ儀ニツキ舞禮ス